

【令和2年度 転退出教職員挨拶】

○石村 智恵子 [副校長] (退職・現：港区立適応指導教室勤務)

御成門中学校の生徒、卒業生、保護者・地域の皆様、3年間大変お世話になりました。御成門中学校で過ごしたどの場面でも、生徒の皆さんの笑顔と一生懸命に取り組んでいるときの眼差しが思い浮かびます。特に昨年は開校50周年記念式典でのダンスや合唱、発表、階段アートなど皆さんの素晴らしさを存分に発揮してくれました。また、PTA・地域の皆様には1年前も前から準備にご支援をいただきました。生徒の皆さんをはじめすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。また、今まで日々気づくことを心掛けてきましたが至らないことも多く、いろいろ助けてくださった先生方、ありがとうございます。直接お話しできないのは残念ですが、最後に、生徒の皆さんには、これからも「夢をもつこと」、「夢の実現に向けて努力すること」を忘れずに過ごしてほしいと思います。夢をもつことでこれから進む道・やるべきことが見えてきます。夢をもって未来に向かってほしいと心から願っています。ありがとうございます。

○杉浦 正一 [技術] (退職)

平成22年4月着任、早いもので10年、この3月末日で定年退職し学校の教育現場を離れることになりました。10年もの長い間、多くの方々に大変お世話になりましたことを心より感謝いたします。誠に有り難うございました。

2月末よりコロナウィルスの流行により学校も休校措置に急遽なっていました。卒業、学年末の大切な時間が無くなり卒業式も一時は無しかとも思ってしまうほど厳しい状況の中、卒業式が実施できたことはこれから先も忘れられない一日となりました。3月以降現在まで、新3、2年生の皆さんとは、お別れの挨拶もないままに終わってしまっていることにとっても寂しい思いを残したままになっています。この間ほんの数ヶ月ですが世の中は一変して新しい世界に変わっています。まだまだ状況は大変厳しい生活を維持するままではありますが、皆さん体調と周りへの心配りを忘れず頑張ってください。

○岸 順一 [数学] (現：中央区立佃中学校)

みなさんお元気ですか。3月まで御成門中学校にいた岸です。お久しぶりです。生徒のみなさんや保護者の方に、何のお別れもできないまま学校を去ることになってしまいました。それが、とても心残りです。離任式もどうなるかわからない中で、みなさんに直接お話ができないので、この場を借りてご挨拶させていただこうかと思います。

御成門中学校には、13年もの長い間お世話になりました。ここでは語り尽くせないほど、御成門にはたくさんの思い出があります。こちらに来る前は、都会のど真ん中に位置する学校でとても洗練されたイメージがありましたが、中身はとても人の温かさを感じる学校でした。生徒だけでなく、PTAの方々や地域の方々の「御成門愛」にあふれた学校だということを、この13年間肌で感じました。私は幸運にも、40周年も昨年の50周年も携わらせていただきましたが、特にその思いをひしひしと感じたものでした。そんな、温かさあふれる御成門中学校を離れなければいけないのは、身が裂かれるようにつらいです。

13年もの間、私を御成門中学校の、そしてこの地域の一員として受け入れていただき、今は感謝しかありません。新天地に行っても、ここでいただいた皆さんの感謝の気持ちを忘れず、邁進していきたい所存です。ご縁があり、またいつかお会いできる日を心待ちにしています。

最後に、こんな時期ではありますが、生徒のみなさん、保護者の方々、そしてOBをはじめ地域の皆様のご多幸とご健勝を心からお祈りし、書面ではありますが私の挨拶に代えさせていただきます。

○龍原 美帆 [数学] (現：町田市立南大谷中学校)

御成門中学校には5年間勤務させていただき、教職員の皆様や保護者の皆様、地域の皆様には、大変お世話になりました。新型コロナウイルスの影響で、直接最後のご挨拶をすることも叶わず、学校生活で関わってくれていた生徒達のことを思うと、本当に残念でなりません。特に、顧問をさせていただいたダンス部のみなさんのことを思うと、今年度出場予定であった大会が中止となってしまったこともあり、胸が締め付けられる思いです。他の部活動でも、力を発揮できず悔しい思いをしていることと思います。しかし、苦しい状況だからこそ、目の前にある、できることにエネルギーを注ぎ、みんなで慰め合いながら、乗り越えていって欲しいと思います。陰ながらですが、応援しています。またいつか、皆様にお会いできる日を心待ちにしています。生徒の皆さん、保護者の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りし、書面ではありますが、私の挨拶に代えさせていただきます。

○手塚 景太 [国語] (現：千代田区立麴町中学校)

私にとって、御成門中学校での思い出の第1位は、「区・先生方・保護者すべてが、学校に通う生徒のために」をまさに真剣に考え、1人1台のタブレットを積極的に活用し、職員室でも教室でも保護者会でも「こども」が主語になるふれあいや話し合いにあふれていたことです。内側にいると意外とそれを言葉にする機会がありません。外に身を置いた今だからこそ、そんな輝く学び舎・御成門で生活している生徒全員が、支えられ、期待されていることを自信にして、自分の夢に向かってさらに輝かしい日々を送ってほしいことへの期待を言葉で伝えたいと思いました。

授業、行事、休み時間…すべての場面で実に熱心に向き合ってくれた生徒の皆さんには、私自身、大きな可能性を感じながら授業をし、たくさん語ってきました。離れたことは寂しいですが、遠くから御成門中学校生の活躍を願っています。

○内藤 丈寛 [事務主事] (現：世田谷区立尾山台中学校)

御成門中学校には5年間勤務しました。その間、保護者・地域の方々には大変お世話になりました。

自分が中学生の頃を振り返ると、「先生や主事さん」は学校とセットで思い出されても、学校に「事務の人が居た」という記憶はありません。そんな私ですが、時には生徒の皆さんとの挨拶や何気ない会話を楽しみ、またある時には、電車を間違えて必死に白金高輪駅に戻ったことなど、東京タワーと共に御成門中での生活が思い出されます。

未だ先の見えない困難な状況ですが、在校生の皆さんにはソーシャルディスタンスに配慮しながらも、御成門中を通して様々な人たちと強い絆で結ばれていることを感じていって欲しいと思います。長い間お世話になりありがとうございました。